

## 第20回おいしい水づくり推進懇話会

日時 平成27年7月29日（水）  
午後1時30分～  
会場 千葉県水道局幕張庁舎  
2階特別会議室

### 次 第

- 1 開会
- 2 局長挨拶
- 3 座長挨拶
- 4 議題
  - (1) おいしい水づくり計画の各施策の取組状況
    - ① 技術的な取組み
    - ② 安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン
    - ③ お客様と協働した取組み
  - (2) 次期「おいしい水づくり計画」について
- 5 懇談
- 6 その他
- 7 閉会

## 第20回おいしい水づくり推進懇話会議事録（要旨）

### （1）おいしい水づくり計画の各施策の取組状況

- （構成員） 最初はカルキ臭の原因物質はトリクロラミンということでスタートしたが、数回前から有機クロラミンや N-クロロアルドイミンといった聞きなれない物質が出てきて判断が難しい。他のところでも研究を進めているのか。
- （構成員） 水道局ではあまり聞かない。大学で研究されている人はいるが、国内では少ない。
- （構成員） 今回、揮発性窒素化合物というのが新たに出てきたが、試験方法は学会で示されているのか。
- （水道局） 試験方法については、今年の3月の日本水環境学会で発表されており、今後、論文を参考に試験に必要な機器の購入も含め、どこまでできるのか検討を進めていきたい。
- （構成員） 飲み水としての満足度がかなり上がっているが、同じ人で続けてデータを取ったらどうなるか興味がある。ウォーターメイトをずっと続けている人はいるか。
- （水道局） 2年の任期終了後、再度応募される方はいるが、当初から続けている方はいないと思う。
- （構成員） 利き水の結果をみると地域差が大きいと感じる。
- （構成員） ちば野菊の里浄水場で利き水の結果が良かったが、高度処理でおいしくなるのなら、これさえやればいいのでは良いのではと思った。利き水は高度処理の浄水場だと知った上で行ったのか。
- （水道局） 浄水場見学会と併せて実施しており、施設を見学したうえで利き水を行っている。また、柏井と福増にも高度処理が入っているが、野菊の成績が良かったのは残留塩素濃度も影響していると考えている。
- （構成員） このような結果をみると、高度処理を入れることによる利益と費用について、市民の方がどう思われるかアンケートによって定量的に把握できれば、今後、施策に生かすことができるかもしれない。
- （構成員） 人口減少や高齢化により、水の使用量が減ると受水槽の滞留時間が増え、塩素が減っていく。千葉県はまだよいが、そういうところは将来的にどうなるか心配だ。
- （構成員） パックテストについては、自分でやってみて結果が目に見えるので、安全であることがわかりやすい。子供も楽しんでやれそうだ。
- （構成員） 子供が楽しんで研究などできるような、「親子で自由研究」は良いと思う。こういうことをいっぱいやってもらいたい。

### （2）次期「おいしい水づくり計画」について

- （構成員） 10年前は、ミネラルウォーターと水道水を飲み比べするというのは考えられなか

った。水道水はおいしくなったと思う。また、最近では貯水槽管理についてもアドバイスをしているが、可能な限り進めていただきたい。貯水槽と直結の割合はどのくらいか。

(水道局) 平成26年度末の直結給水率は70.6%となっており、平成18年度の62.9%よりも7.7%上昇した。

(構成員) 上昇した主な要因は何か。

(水道局) 貯水槽水道巡回サービスなどにより、直結給水のメリットを十分説明をしたことなどが考えられる。

(構成員) 新築物件で変わってきているのか。既存の住宅で給水方法を変えているのか。

(水道局) 両方ある。

(構成員) 当社も受水槽があり、お客様から水質はどうかとの質問がある。安全性がクローズアップされていることは良いと思う。

(構成員) 施策の体系は良くまとまっていると思う。高度処理、多点注入、メンテナンス、貯水槽など、正にこれなのではと思う。後はどこまでやれるかというところだと思う。

(構成員) 残留塩素の目標値は0.4mg/Lを残した方が良いか。

(水道局) 0.4mg/Lは、利き水でおいしい水のレベルを表す数値として決めた経緯がある。

(構成員) キャッチフレーズは変更しないのか。

(構成員) 変えるタイミングとしては、今だと思う。

(構成員) 技術的な取組みで、配水管網の管理・整備とあるが、具体的な布設替えの計画はあるか。

(水道局) 耐用年数の40年を経過した管について、順次交換していく計画で、耐震化も併せて進めている。今のところ、年間約70km程度を交換する計画としている。

(構成員) 最近では赤水が出ることはあまりないのか。

(水道局) 管の入れ替えが追いつかないところでは、赤水が出やすい箇所もある。そういった所では計画的に夜間洗浄などを実施している。

現在、こういった管内洗浄を、年間1,000km以上行っている。

(構成員) 貯水槽の管理状態がバラバラで塩素を上げなければならないという理解でいるが、全部直結になった場合には下げられるのか。

(水道局) 貯水槽内で消費される塩素は0.3mg/L程度と想定している。全て直結になれば、管路の残留塩素濃度を下げられるが、病院、工場、小学校など貯水槽を残しておいた方が良いケースもあり、貯水槽をゼロにするということは難しいと考えている。

(構成員) 残留塩素を下げた場合に、どれくらいコストが安くなるのか。

(水道局) コストはあまり下がらない。

(構成員) 貯水槽水道の管理は、法的な意味でもっとやれるのか。

- (水道局) 貯水槽については衛生部局の管轄であり、水道局では指導しにくかったが、法改正により以前よりも強く指導できるようになった。
- (構成員) おいしい水の施策や分析は、他の業界や自治体と連携したほうが効率的ではないか。
- (水道局) 水道は地域によって原水や処理が大きく異なり、難しいところもあるが、クロラミンなど共通の知見として情報共有して研究などは行っている。
- (構成員) 分析については、ちゃんと分析できるようになったら取り入れることにして、官能検査をメインに据えればよい。
- (構成員) 前回、オランダの報告を受けたが、何か参考となるものはあったか。
- (水道局) 残留塩素ゼロについては、日本では水道法があるので直接的に取り入れるのは難しいが、塩素を徐々に減らしていった取組みは参考になると考えている。管網を滞留させないネットワークの構築なども勉強になった。
- (構成員) 野球とかイベントなどで、千葉県の水を使った水でキャンペーンをしてはどうか。
- (構成員) 人工芝のサッカー場では、水筒にお茶を入れていってはいけないという規則があり、水を入れていく。水に関心がある人も多いと思うので、そういうところでも良い。
- (構成員) ポタリちゃんはずいぶん浸透したが、新しいグッズはあるか。
- (水道局) 以前いただいた意見を参考に、消しゴムの製作準備を進めている。
- (構成員) LINEのスタンプはどうか。
- (構成員) 鉛筆があれば、子供は必ず使う。
- (構成員) 戦略的広報とあるが、おいしい水の取組みを日常で見る機会がない。もう少し、料金表や駅前や野球場でのPRなど、一般の人にも取組みが理解できるような広報が必要ではないか。
- (水道局) 現在、広報ではベイFMで毎週木曜日にラジオCMで安全でおいしい水をPRしている。また、TVでは高校野球ダイジェストにCMを入れていた。